

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームらべんだあ	評価実施年月日	平成20年12月22日
評価実施構成員氏名	木村 菊池 石田 小林 田口 豊島 中村 若佐		
記録者氏名	木村 清美	記録年月日	平成20年12月24日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	法人の理念とは別にグループホームで生活されている利用者様との理念をかがげ、利用者様が地域で生活していく援助を職員個々が心掛ける様に促し進めている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	見えやすい場所に理念を掲示している。職員一人ひとりが理念を理解し理念に基づいたケアが行なえるように取り組んでいる。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族へは入居時の説明に含むほか、理念を来訪時などで来られた際に目に入りやすい箇所に掲示し、理解して頂けるようにしている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	外気浴などの際、率先して挨拶するように心掛けており、行事等の案内もその都度利用者様と一緒に配慮するなどし、気軽に足を運んで頂けるように努めている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事に積極的に参加させて頂いたり、町内のお店などを利用することにより、利用者様と社会のつながりに努めている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	開設から3年経過した為、10月より認知症対応型通所を行なっている。より広く地域の要望に応えられるように心掛け地域との関わりを増やしていけるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>外部評価の内容についてミーティングなどで話し合い、改善項目の見直しの他自己を見つめなおす機会として更なる向上をしていけるように努力している。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>グループホームの現状報告のほか、運営推進会議の際に避難訓練、災害対策における講話、慰問を行いより関心を持って参加して頂けるよう工夫をしている。</p>	<p>○</p> <p>会議の中でご家族や地域の方から挙げられた声をケアに反映していけるように努力していきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議では、町の介護保険課の課長にも参加して頂いた際やさらには、月に一度来て下さる生活相談員の来訪の際に意見交換や情報交換を行い第三者の目からの質の向上に取り組んでいる。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>具体的な勉強会や話し合いを持っていない</p>	<p>○</p> <p>現状として実施できていないため、関係者などから学ぶ機会を設け、制度に対する理解を深めていきたいと考えています。また、研修会などがあれば積極的に参加し職員全体に浸透していけるようにしていきたいと考えている。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>日頃より高齢者虐待・身体拘束についての重要性について説明をしている。職員間で重要事項として徹底し取り組んでいます。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際にはご家族が納得して頂けるまで詳しく説明を行い契約前の入居検討を頂いている段階や入居後においても説明や質問に対する回答に対し随時対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月に一度、町の生活相談員の来訪があり、その際に利用者様の思いや率直な声を聴いて下さっている。その際、利用者様から挙げられた声に対しては会議の中で話し合い反映していけるように努力している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月1度グループホーム便りとして、利用者様個々の生活状況のほか、写真も添えてお伝えしている。また、あまり来訪できないご家族に対しては電話などでも生活状況をお伝えすることもある。	○	家族のお便りのみならず、来訪の際にはご家族への協力をお願いしたり、新たな情報を頂く機会としても深く関わっていきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの相談・苦情を受けた場合、すぐに改善していけるよう職員全体で話し合い改善に努めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度のミーティングのほか、必要に応じて会議の場を設け話し合いを行なうようにしている。職員が率直に言えることとケアの統一化を図るためケアノートを作り、職員の意見やアイデアをケアに反映していけるように工夫している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様の状態や、現場の状況により不都合が生じないように他ユニットからの協力を得ながら対応していけるように最大限生かしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には馴染みの関係を保てるように固定で対応しているが、状況により異動などがある場合には、利用者様やご家族に不安や混乱を招かぬよう心掛けています。	○	異動後もまず利用者様やご家族と十分にコミュニケーションを図れる機会をつくる努力をし不安や混乱を最小限におさえる配慮を行なって行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の勉強会や研修報告会に積極的に参加し、知識の習得や情報共有となるよう働きかけている。また、根釧地区グループホームへの交換研修を通しケアの質向上に繋がる様努力している。	<input type="radio"/> 職員の段階に応じて、必要な研修や学びの機会をつくっていけるよう取組んでいきたいと考えている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	あらゆる研修会を通し、同業者の方との情報交換を行いケアの質向上に向け取り組むようにしている。	<input type="radio"/> 同業者との情報や研修会などで得たケア方法について全体で情報共有をしていけるよう研修報告会を行い質の向上に繋がる取り組みを行なっていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	定期的に食事会など職員がリフレッシュできるよう行っている。	
22	向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の努力や成果を把握し評価している。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人の思いを受け止められるよう努力をしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の不安や要望に関して十分に話を聴き受け止める努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思いを確認し必要に応じた情報提供が出来るように努めている。また必要に応じた支援提供できるように努めている。また必要に応じ医療機関や作業療法士、管理栄養士などの専門職からの指導・サポートを受けている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には本人が不安なく利用できるようグループホームの見学などを促し、職員や利用者様と馴染みの関係を保てるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の話や関わりから、昔の暮らしぶりや思い・不安などを知る努力をし、本人の意向に沿った支援が出来るように心掛けている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の現状報告をした中でご家族からのご意見やご要望を聴き、協力して頂けないかお願いをしている。	○	ご家族へ細目に情報提供を行い、共通認識のもと本人を支えるための協力体制を確保していきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の思いを聴きご家族の協力を得ながら外出支援や行事参加による本人とご家族の関係を築けるよう働きかけている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔から馴染みのあるお店を利用したり、外出することでこれまでの生活習慣や人との関わりが途切れないように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	同業であった方や同じ地域で暮らしていた方たちの交わりを大切にし共通の話題で過ごせる時間を尊重している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても、行事等の呼びかけを行い、継続して関わりが持てるように配慮している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話や言動から本人の意向を知る努力をしている。意思を伝えることが難しい場合には、ご家族や知人の方から情報を頂き把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らし、その方をとりまいていた生活環境などを本人やご家族から情報収集し以前の暮らしと大きな変化がなく過ごしていけるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活リズムを把握し、その中で本人が出来ることは何か考えながら支援を行い努力している。	○	特に、自発性や自己決定ができない利用者様の生活については変化を見落とさないよう更なる把握に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族など、関係者が会議に出席できない場合は、概案の計画書を送付し同意または修正を行った上で介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に介護計画書の見直しを行い、入退院後の状態変化に加えアセスメントを行い、新たな見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録から本人の現状や思いを再確認し、介護計画書の見直しやケアのヒントとして役立てています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	認知症デイサービスを平成20年10月より開設し、地域社会とのつながりを増やしている。また地域の方が毎週来て下さることで、交流も深まり、いい意味での刺激となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民謡、フラダンスなどの慰問、出張理容や移動図書館バスなどの支援を頂いている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	デイケアと連携を図り、リハビリテーションを行なっている。必要に応じ、専門職からの意見や助言を頂きケアに反映する支援を行なっている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	相談や情報交換を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ほぼ毎日、かかりつけ医、看護師による往診を受けており可能な限り元気にその人らしく生活できるよう介護・医療のトータルサポートを提供し続けている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医のサポートの下必要に応じ専門医療への受診を受けられるような体制が出来ている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ほぼ毎日、医療機関からの往診を受けており日常生活における健康管理の援助を受けている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院に伴い、身体機能の低下や認知症の進行を遅らせるために家族を通し早期退院できるようにしている。病院関係者とも、利用者様の生活状況について情報提供を行い情報共有に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	定期的に掛かりつけ医とご家族の個別面談を行い、状態に合わせたその後の方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	できる範囲の上で、重度化・終末期に向けたケアについて医療と家族からの協力に取り組んでいるが、できない範囲においては、別サービスへの転居などの検討助言を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>環境変化によるダメージを最小限におさえるよう情報交換を行い、掛かりつけ医からの現状や今後必要な援助について聴き家族に伝えている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>日頃より、トイレの声掛け等、あからさまに言わないように気をつけている。また、利用者個々の情報についても情報漏洩に十分配慮している。</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの能力に応じて、衣類の選択、飲食の選択など自己決定できるよう工夫をしている。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>生活パターンを把握し、本人のペースを大切にし職員の都合ではなく、都度確認するよう心掛けている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人がこれまで生活してきた環境を継続していけるよう、馴染みのお店や美容院に出掛ける様にしている。</p>		
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事においては、見た目や調理方法を工夫し、美味しく食事ができるように配慮している。また、盛り付けや片付けも毎日の日課へとつながるよう声掛けをし一緒に取り組むようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	アルコールについては、法人理事長より脱水などへの影響があることから対応していない。しかし、行事などではノンアルコールを使用し楽しんで頂けるよう配慮している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、本人の状態に合わせて極力トイレでの排泄が行なえるように対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の入りたい日や時間に配慮している。また入浴に対しての不安や羞恥心を抱かぬよう声掛け等には配慮しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中、日当たりのよい場所で日向ぼっこをしたり、状況に応じて休息をとれる様にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	裁縫や調理、たたみ物など一人一人得意なことや馴染みの事を生かして生活できるよう対応している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	事前に家族の了承を得て小額のお金を本人に預けている。買い物や外食時には、支払いもご自身でして頂くなどの支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>本人からの言動や訴えに対し、職員の配置を考え、外出出来るようにしている。</p>	○	<p>利用者様が自由に散歩や外出できるよう、職員間の連携や安全性について検討していきたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>家族の協力を得ながら、お墓参りや温泉などに出掛けられる様に支援している。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	<p>利用者様からの希望の他、言動等から心情を察し、電話や年賀状などによる家族との繋がりを大切にしています。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>家族の方が遠慮や気遣いをしないよう自然な形で対応するように心掛けている。遠方から来られるご家族に関しては、宿泊の声掛けをしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定制基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について、職員間でも話し合いをする様にし、共通理解に努めている。身体拘束に至る前に、出来る事はないのかその都度ミーティングなどで話している。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>基本的に、不審者の侵入を防ぐことから理事長の指示で施錠を行っていたが、職員全体が鍵を掛けないことに対する重要性を理解し、安全に利用者様が出掛けられるよう、様々な工夫をしながら季節や状況に合わせて対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>昼夜問わず利用者様の所在や様子がわかるように、職員間で声掛けを行なっている。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>薬品や消毒液などは鍵のかかるロッカーに保管している。包丁やブリーチ等も専用の箱や棚にしまい、利用者様の状態や状況に合わせて管理している。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>リスクや危険を想定して対策を講じている。日々の生活の中で起こりえるヒヤリハットを把握し事故防止に努めている。</p>	○	<p>他ユニットでの事故やヒヤリハットも共通理解し、新たな事故に繋がらぬ様、話し合いをもっている。</p>
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>普段から、利用者様の状態を把握し特変時は緊急時マニュアルに基づいて対応している。</p>		
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回避難訓練を実施している。家族をはじめ近隣住民の方にも災害対策に対する理解と協力を得られるよう参加を促している。</p>		
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>定期的に掛かりつけ医とご家族の個別面談を行い、その中でリスクについての対応策を話している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日血圧等を測定し、さらには普段と違うところがないか観察するように心掛けている。特変が見られる場合は、早急にかかりつけ医や看護師に連絡している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様の内服薬、外用薬等について把握できるよう処方箋をファイルに綴じ用法、副作用に対して周知できるようにしている。	○	利用者様の薬の把握については、リスクや副作用も理解し、徹底して把握できるようにしていきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	定期的に来られる管理栄養士から便秘に対するアドバイスを頂いたり、適度な運動や食材の工夫をしている。慢性的な便秘などは看護師に相談し適切な量の便秘薬を使用している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔洗浄を促している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	定期的に来られる管理栄養士よりメニューのチェックをして頂き、栄養面での偏りがないようにしている。味付けも塩分測定器を使用し、減塩にし水分量や食事量も都度チェックしている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを基に感染予防に努めている。外部からの感染症を持ち込まぬよう職員をはじめ、来訪者に対しても手洗い、マスクの着用などを促している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎月担当者が冷蔵庫内の整理と衛生管理をしている。毎日使用するふきんやまな板も漂白し、食材については、つくり置きしないよう対応したり食材によってはメニューの変更を行なうなど臨機応変に対応している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先には花壇やプランターに花を植え近隣の方や向かいユニットの利用者様も楽しんで頂けるように工夫している。また、玄関先にベンチを置くことにより、利用者様同士の団欒の場所となっている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節に合わせた装飾や利用者様の作品等を飾り季節感や楽しさを味わえるようにしている。また、トイレや居室のドアには隙間シートを張り不快な物音がしないようにしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>その都度状況に応じて、和室や共有スペースの一角を利用し個々に楽しめるように配慮している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入所の際には、個々の馴染みの物や使い慣れたものを持参していただくよう話している。本人との会話の中から必要な物があれば、家族にお話し購入することもある。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>24時間ホーム内の換気を行なっている。ここの居室に室温計を設置管理している。また、時期によって外気との温度差が生じないように配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者様の状態に合わせてテーブルや日用品等の保管場所を選定している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>案内表示や行事等の案内などでは、文字よりも写真や絵柄を多くし視覚に問いかけている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関先に花壇やプランターを置き、ホーム内からも育成状況が楽しめるようにしている。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>㊦ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>日々の関わりの中から、利用者様の思いや生活の意向について知る努力を心掛けている。</p>
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>㊦ 日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>食事づくりや家事を利用者様と一緒に取り組むなどゆっくと過ごせる時間をつくっている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>これまでの生活を極力変えないように、入浴や食事時間帯余暇の過ごし方を本人の希望に添えるように対応している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>さりげない声掛けや援助をさせて頂くことで、自信や達成感を感じてもらえている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>ご家族の協力を頂きながら、馴染みの場所や行きつけのお店を利用している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>㊦ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者様個々の体調などの把握に努め、かかりつけ医や看護師から適切な指示のもと安心して暮らせるよう支援している。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>㊦ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者様の状態や要望に沿えることができるよう、ご家族の協力や職員配置に考慮し柔軟に対応している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>ご家族の思いを汲み取れるよう、要望や相談等ご家族が納得されるよう丁寧に説明を行なっている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 ㊦ 主に ほとんどない</p> <p>知人の方や向かいユニットの利用者様などが来訪されている。</p>

. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている ①しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議を通し、グループホームをはじめ法人内の取り組みについても知って頂ける機会ともなり、行事等の参加も増えている。
98	職員は、生き生きと働いている	②ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員一人一人の意見やアイデアを取り入れることにより、職員のやる気につながっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	③ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	利用者様の性格や嗜好などを把握し、安心して生活していけるように心掛けながら対応している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が ④家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ご家族のケアに対する率直な声をケアに生かせるよう都度話をすることを心掛けている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 10月から開設した認知症デイサービスにより、社会的な繋がりや人との関わりをさらに深めている。
 また、法人内の別事業所と連携を図り、リハビリの実施により、より多くの楽しみや生き甲斐を持てるように支援していきたいと思えます。
 地域の方との繋がりについても、グループホームに生活されている方を理解して共に支えあっている様に地域への還元も目指していきます。